

2025 年度

(令和 7 年度)

施政方針

2025 年 2 月

安芸高田市

目 次

1. はじめに		1
2. 基本姿勢		2
3. 主な事業		3
(1) 対話による改革		3
(2) 暮らしやすい“あったかい”まちづくり		3
(3) すくすく子育てとまなび		5
(4) ぬくもりのふくしとシニアの底力		6
(5) がんばる産業はまちの原動力		7
4. おわりに		8

1. はじめに

市政運営に関する所信と 2025 年度当初予算における主要施策の概要について説明します。

本市は、人口減少や少子高齢化、また、厳しい財政状況などさまざまな課題が山積しています。これらの諸課題に正面から向き合い、私たちのふるさとを将来にわたって守ると同時に、未来への道筋をつけていかなければなりません。

昨今の社会情勢は、情報通信技術の急速な発展や物価高騰など、常に変化しています。この変化を的確に捉え、市民一人一人に寄り添い「対話」を基調とした「誰も置き去りにしない」ふるさと安芸高田市の実現に向け全身全霊で取り組みます。

さて、いよいよ今年は、「EXP02025 大阪・関西万博」が開催される記念すべき年となりました。日本を代表する文化として着実に活動の幅を広げてきた本市の神楽も公演が決定しており、全世界に向けてその魅力を発信できる絶好の好機であると捉えています。

本市の特色である「神楽」、「毛利元就」、「サンフレッチェ広島」などを生かした魅力発信を行うとともに、「ふるさと応援の会」などの関係団体と連携し、さらなる関係人口の拡大につなげていきたいと考えています。

また、広島県が整備している「東広島高田道路」の建設が大詰めに迎えています。道路が開通することで、多くの効果を期待しているところです。

2. 基本姿勢

それでは、基本姿勢について説明します。

基本姿勢は、「まとめる」、「あったか」、「やりぬく」です。

まず、まとめる力で市民が主人公の市政を目指します。次に、ぬくもりのあるあったかいまちをつくります。そして、ツケを次世代に回さないよう、財政改革をやりぬく覚悟です。

この3つの基本姿勢のもと、5つのビジョン「対話による改革」、「暮らしやすい“あったかい”まちづくり」、「すくすく子育てとまなび」、「ぬくもりのふくしとシニアの底力」、「がんばる産業はまちの原動力」を柱に行財政運営を進めます。

2025年度は、今後20年の安芸高田市の姿を見据えた「基本構想」と直近4年間の「基本計画」を策定します。人口減少が続く中でも「安芸高田市らしくあるために何を守っていくべきか」、「魅力ある安芸高田市になるためには何が必要か」など、次世代を担う若者や市民の皆さまの意見を踏まえた「総合計画」とします。

並行して、財政的に実現の可能性を確認するため、「財政健全化計画」を改訂します。

総合計画に掲げる取り組みを推進するにあたって、行財政の効率化とスリム化は、欠かすことができません。公共施設の適正化を定めた「公共施設等総合管理計画」では、2034年度までに総延床面積を37%削減することで、更新費用や維持管理費用を大幅に圧縮できる見込みとなっています。地域や受益者の思いをくみ取り、必要な施設を効率的に配置します。また、下水道などのインフラについても、計画的な施設の管理や更新を行います。

3. 主な事業

続いて、5 つのビジョンの実現に向けて、2025 年度の主な事業を説明します。

(1) 対話による改革

1 点目は、対話による改革です。

市民の声をまちづくりに反映し、市民と行政の協働によるまちづくりを積極的に推進するため「対話集会」を実施します。

具体的には、市長自らがテーマを設定し市民の皆さまと行うテーマ別や市内 32 の地域振興組織を対象に行う地域別、また、市内に拠点を置く団体を対象に行う団体別の対話集会を開催し、それぞれの抱える課題の意見交換を行います。このような対話の機会を活用し、市民の声を幅広く聴き、まちづくりを市民の皆さまとともに進めます。

さらに、対話による改革は市役所の中でも行っていきます。全体の奉仕者として仕事に従事する職員と向き合い、風通しの良い組織づくりを実現し、課題の把握や取り組むべき方向性などを共有します。

(2) 暮らしやすい“あったかい”まちづくり

2 点目は、暮らしやすい“あったかい”まちづくりです。

市内の集落維持と活性化のため、地域の実情に詳しく、集落対策の推進のノウハウを有する人材として、支所に集落支援員を新たに配置します。支所を地域の拠り所と位置付け、相談機能を充実させます。併せて、地域課題の集約や地域振興組織の運営をサポートします。

防災については、自主防災組織などを対象とした各種支援の実施によって、地域の防災力を高めます。

公共交通については、「地域公共交通計画」に基づき、市内の交通体系を効率的な運行に見直し、持続可能な形になるよう再編を進めます。また、昨年からはまった「芸備線再構築協議会」、「三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会」においては、関係自治体と JR 芸備線のあり方を議論します。

カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みとして、温室効果ガスの排出量削減等を推進する実行計画を策定します。

サンフレッチェ広島については、全試合のパブリックビューイングやホームゲームを毎試合観戦できる機会を提供し、引き続き市全体で応援します。

安芸高田わくながハンドボールクラブについては、地元開催の試合を市民が観戦できるよう取り組むとともに、クラブ選手を小中学校に招聘して児童生徒がハンドボールに親しみ、関心を高める機会を創出します。

歴史民俗博物館では、毛利輝元没後 400 年にあたり企画展を開催し、歴史・文化の保存啓発を図ります。

また、元就の里文化・スポーツ事業として、「山守プロジェクト」、「リレーマラソン」、「e スポーツ大会」を引き続き開催する計画です。これらのイベントを通じて、文化・スポーツの振興、市民の一体感の醸成、さらに、関係人口の創出に取り組みます。

(3) すくすく子育てとまなび

3点目は、すくすく子育てとまなびです。

中学校の統合については、これまでの取り組みを尊重し、「対話からの前進」を軸に、新たに市民や中学生と対話を行い、現在の中学校を取り巻く状況や想いを共有しました。子どもたちにとって、より良い教育環境を整備するという観点から、これからの安芸高田市を担う生徒が過ごす義務教育最後の学び舎として、最新で最上の学校を目指して検討を進めます。

学校施設については、暑さ対策のため、すべての小学校体育館の空調設置を完了させます。また、老朽化が進行している向原小学校校舎の長寿命化を図るための調査に入ります。

コロナ禍以降、不登校の児童生徒が増加傾向にあり、その要因も複雑化、多様化しています。そうした子どもたちの自立を支援するため、従来の教育支援センターの運営、校内の居場所となるスペシャルサポートルームやフリースペースの設置に加え、新たに民間のフリースクール等の活動を支援する補助金を新設し、子どもたちの興味関心に応じた柔軟な学習活動を支援します。

学校教職員の働き方改革として、中学校で先行実施した給食支援員を拡充し、小学校へも配置します。負担軽減もさることながら、教育の質の向上につながり、子どもたちに寄り添った指導が促進されるよう、継続して取り組みます。

子育て支援については、本庁の福祉保健部内に「こども家庭センター」を設置することで母子保健と児童福祉の機能を統合し、妊産婦から子育て世帯、また子ども自身に対して、切れ目のない一体的な支援体制を整えます。

また、吉田地区の公立吉田保育所、みつや保育所、吉田幼稚園を統合し、新たな認定こども園を整備するため、同じ吉田小学校区内で建設用地の選定を進めます。子どもたちに安全安心な保育環境を提供するため、早期の移転実現に向けて取り組みを進めます。

(4) ぬくもりのふくしとシニアの底力

4点目は、ぬくもりのふくしとシニアの底力です。

年齢を重ねても健康で元気に暮らすことができるよう、介護予防事業を拡充し、幅広く市民が介護予防、フレイル予防に取り組める環境を整備します。これまで高齢者には馴染みのなかったオンラインツールを活用した介護予防や地域交流の促進にも取り組みます。

予防接種については、新たに定期予防接種 B 類となる带状疱疹予防接種に対して、接種費用の一部を助成します。

医療体制については、持続可能な地域医療の確保のため、市内唯一の総合病院である JA 吉田総合病院の運営に対する支援を拡充します。また、人材確保が困難となっている医療機関や福祉施設の看護師を確保するため、奨学金の返済を支援する補助金を新設します。

(5) がんばる産業はまちの原動力

5 点目は、**がんばる産業はまちの原動力**です。

商工業については、都市部の企業誘致や起業支援の補助制度を周知し、未利用施設等の活用を推進します。また、事業の継承者不足や物価高騰の影響などにより、事業継続が厳しい状況にある事業者を積極的に支援します。

道の駅などの観光施設では、事業のスリム化を図るなど、経営改善に取り組めます。経年劣化が進む施設改修を踏まえた運営方針を検討し、各施設の運営効率や集客力の向上を図ります。

農業については、持続的かつ安定的な経営を行うために必要不可欠な農業用施設の適正管理を推進します。併せて、人的被害を与える恐れがある重点ため池のうち、未利用ため池の廃止を促進し、防災上の危険を排除します。

鳥獣被害対策については、被害低減の取り組みを継続し、老朽化した食肉加工施設の建設用地の選定を進めます。

ふるさと納税制度を活用し、継続して財源確保に向けた取り組みを推進します。市内の魅力ある資源の発掘や再調査を通して、これらを市内外へ発信すると同時に、市のイメージ向上やファン層の拡大、市内事業者の産業振興につなげます。

4. おわりに

2025 年度予算編成の提案にあたり、所信の一端を申し述べました。

将来にわたり安芸高田市を持続可能なまちにするためには、継続して行財政改革に取り組む必要があります。厳しい財政状況ではありますが、限られた財源を有効に活用する必要があります。事業の優先順位を見極め、予算配分を厳格に行い、未来に向けて健全な行財政運営を目指したいと考えています。前例踏襲ではなく、何が最適かという視点を重視し、より高い成果を目指して全力を尽くしていきます。

また、様々なニーズと課題、例えば企業誘致など、迅速かつフレキシブルに対応していく必要がある案件については、既存の部局を超えて横断的に仕事ができ、市長、副市長等の特命の案件をタスクとするポストを創設します。

安芸高田市が持つ潜在的な魅力を引き出し、安心して住み続けることができる、そんなまちを目指したいと考えています。

職員と一丸となって、新しいまちづくりを推進していきます。市民の皆さまにはご理解とご協力をお願いします。